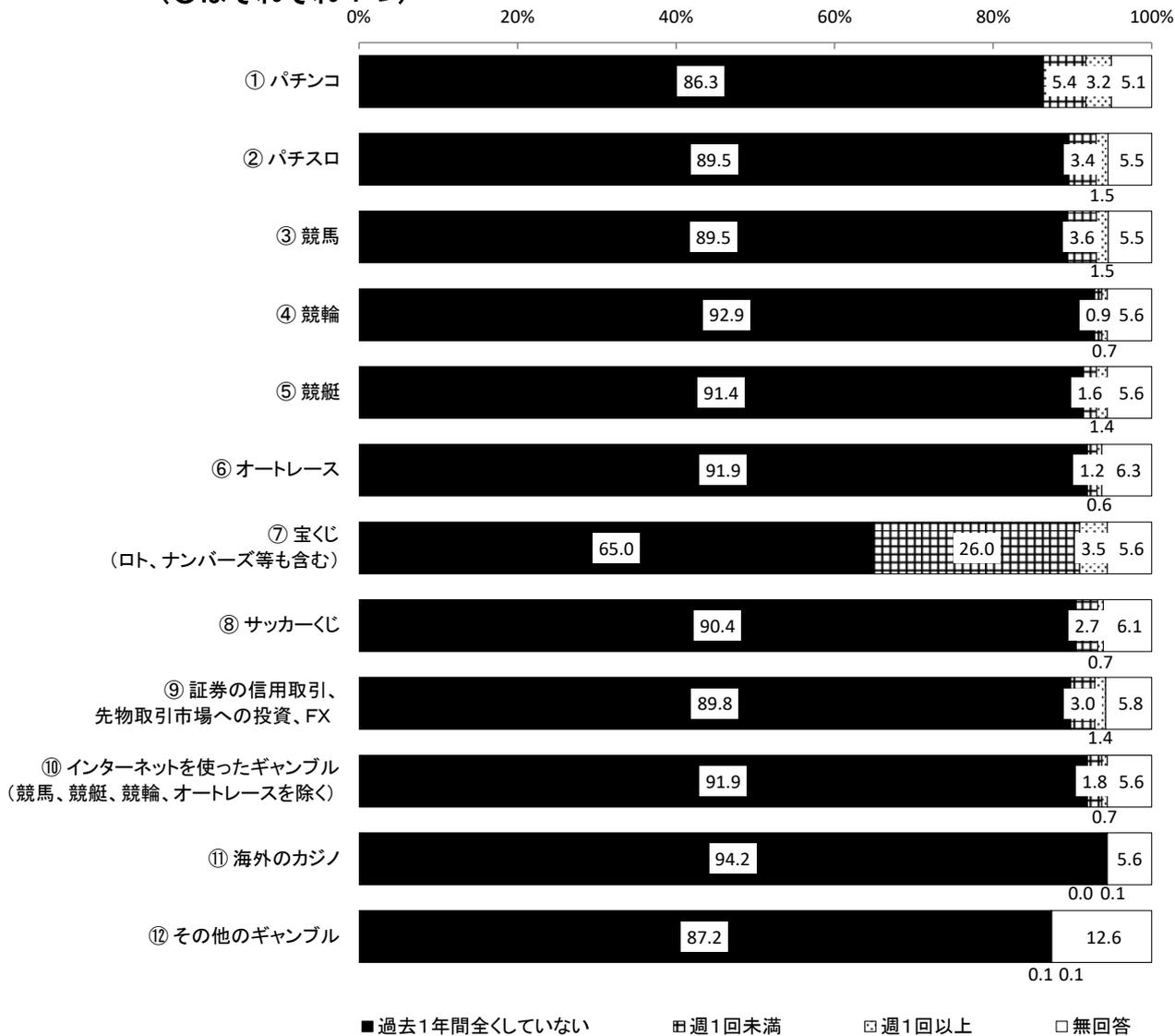


16. ギャンブル等の県内の実態の調査について

16-1. 過去1年間のギャンブル実施頻度

Q16-1 あなたは、ギャンブル等について、過去1年間はどのくらいの頻度で行っていましたか。この調査でギャンブル等とは、下の①～⑫のことです。①～⑫のギャンブル等について、「1：過去1年間全くしていない」、「2：週1回未満」、「3：週1回以上」からあてはまる番号に○をつけてください。

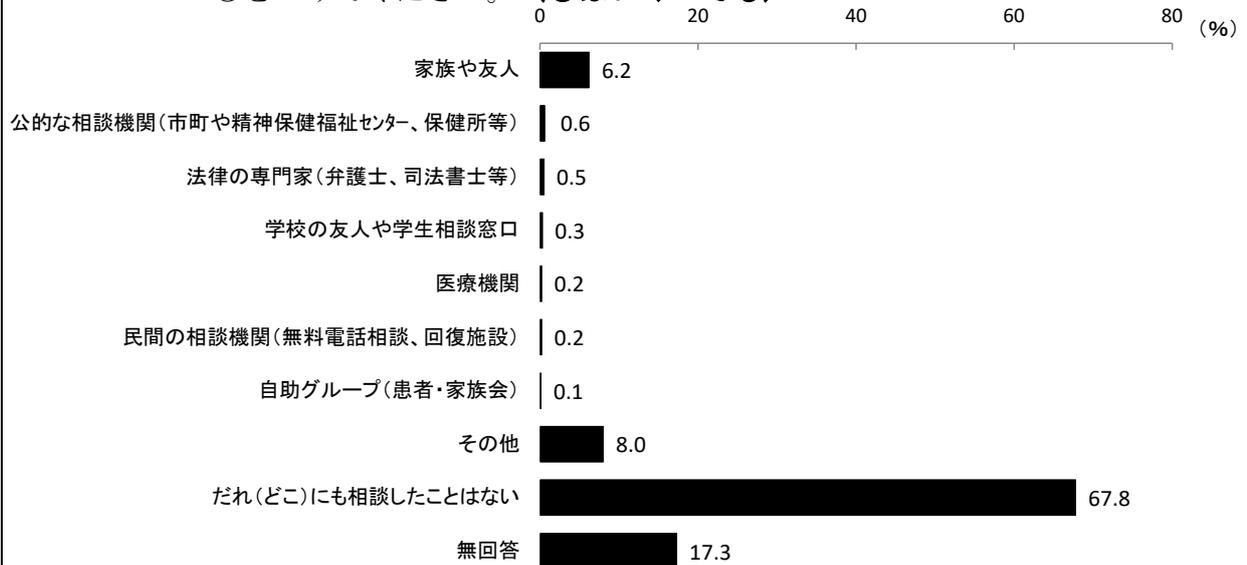
(○はそれぞれ1つ)



過去1年間のギャンブル実施頻度について、すべてのギャンブルで「過去1年間全くしていない」の割合が最も高くなっており、6割超から9割超となっている。

16-2. ギャンブル等で困りごとを抱えたときに相談した相手

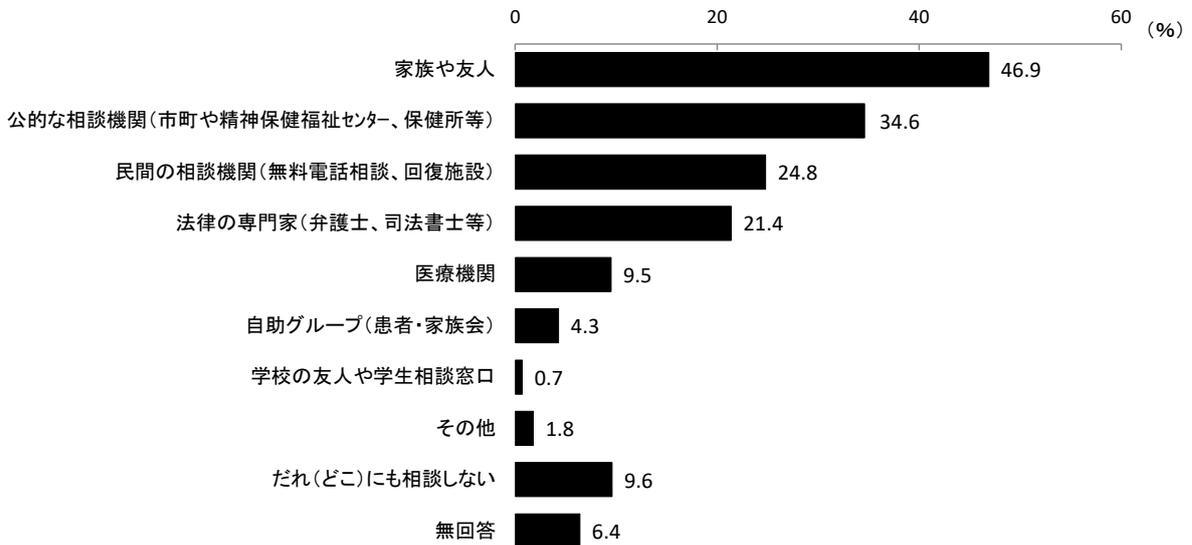
Q16-2 あなたはこれまでに、あなた自身のギャンブル等のことで困りごとを抱え、だれか（どこか）に相談したことはありますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。（○はいくつでも）



ギャンブル等で困りごとを抱えたときに相談した相手について、「家族や友人」が6.2%と最も高く、次いで「公的な相談機関（市町や精神保健福祉センター、保健所等）」が0.6%、「法律の専門家（弁護士、司法書士等）」が0.5%の順となっている。また、「だれ（どこ）にも相談したことはない」は67.8%となっており、全体で最も高くなっている。

16-3. 自身や重要な関係者が困りごとを抱えた時に相談しようと思う相手

Q16-3 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者（家族や友人、同僚、交際相手など）がギャンブルのことで困りごとを抱えたら、だれ（どこ）に相談しようと思いますか。（〇はいくつでも）

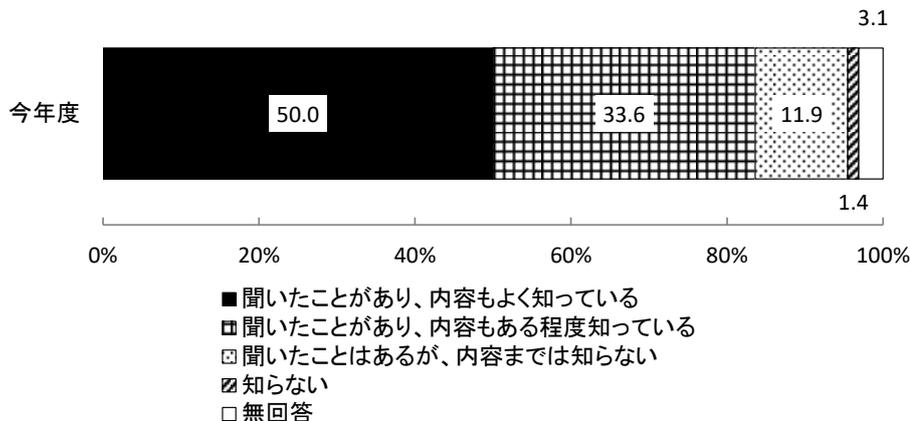


自身や重要な関係者が困りごとを抱えた時に相談しようと思う相手について、「家族や友人」が46.9%と最も高く、次いで「公的な相談機関（市町や精神保健福祉センター、保健所等）」が34.6%、「民間の相談機関（無料電話相談、回復施設）」が24.8%の順となっている。

16-4. 「ギャンブル依存症」の認知度

Q16-4 あなたは、「ギャンブル依存症」※という言葉を知っていますか。（〇は1つ）

※「ギャンブル依存症」：ギャンブル等にのめり込むことにより日常生活または社会生活に支障が生じている状態のこと。



「ギャンブル依存症」の認知度について、「聞いたことがあります、内容もよく知っている」が50.0%、「聞いたことがあります、内容もある程度知っている」が33.6%、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が11.9%となっており、3項目を合わせた『聞いたことがある』の割合は9割超となっている。一方、「知らない」は1.4%となっている。